

ワカメ陸上刈取り装置の開発

技術の概要

■ 刈取り作業の現状と課題

3～4月ごろに洋上でワカメを刈り取り、出荷します。
一部はボイル塩蔵加工して出荷します。

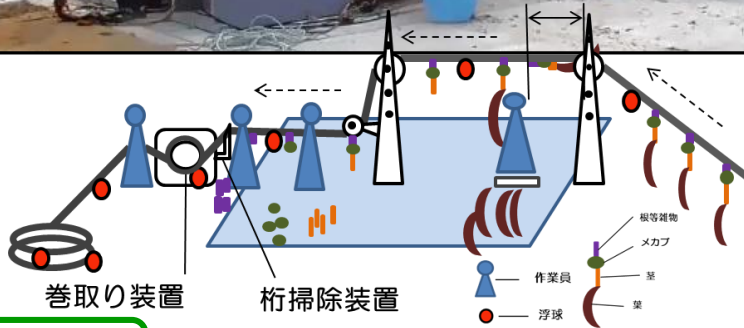
- 作業が短期間に集中。
- 小型漁船で前かがみの姿勢で作業するので、体への負担が大きい。

⇒ 労働環境の改善や省力化が課題となっています。





■ 「陸上刈取り装置」を開発しました！

養殖桁を港内に曳航してから、装置を使って養殖桁を巻き上げ、人手によりワカメの刈り取り作業を行います。



ローラーで桁を送り、通過するワカメをカメラで刈り取っていきます。

期待される効果

作業体制（作業人数4人）	養殖桁150m刈り取りに要する時間※
【装置】陸上り取り (4人×1グループ) 	73分
【従来】洋上 船外機 (2人×2グループ) 	230分

※桁掃除作業を含めた作業時間

この装置を用いることにより、

- ⇒作業時間が3割に削減！
- ⇒安全で楽な姿勢で作業できる。
- ⇒桁掃除・回収も同時にできる。

【お問い合わせ先】岩手県水産技術センター企画指導部 TEL 0193-26-7914

当技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。